

第2節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 白石地区市道歩道改修工事(電柱移設工事)に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査面積 約1㎡

調査期間 平成16年8月18日

調査担当 田畑直彦

調査結果 山口市による白石地区市道歩道改修工事に伴い、歩道に設置されていた2本の電柱について、白石構内への移設が計画された。工事は、北側の電柱(A地点)とその支柱(B地点)、南側の電柱(C地点)について、A地点、C地点は直径約60cmの円形の範囲内、B地点は50cm×80cmの範囲について掘削を行うものであり、立会調査を行った。

A地点は現地表下約90cmが表土・造成土で、約90～150cmが緑灰色砂礫土であった。B地点は現地表下約100cmが表土・造成土で、約100～137cmが緑灰色砂礫土であった。C地点は現地表下約23cmが表土・造成土で、約23～34cmが水田耕土、約34～47cmが床土であった。以下、約47～106cmが溝ないし河川の埋土と考えられる灰色砂礫土、約106～180cmが地山である淡黄色粘土であった。しかし、いずれの地点からも遺物は出土しなかった。

C地点で確認された灰色砂礫土は遺物が出土していないが、弥生時代以降の溝ないし河川堆積によるものと考えられる。これまでの調査で調査区の周辺では顕著な遺構・遺物は確認されていないが、今後の施設整備にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意を払う必要がある。



図4 調査区位置図



写真7 C地点土層断面(南から)

2. 教育学部附属山口小学校事務室棟新営工事に伴う立会調査

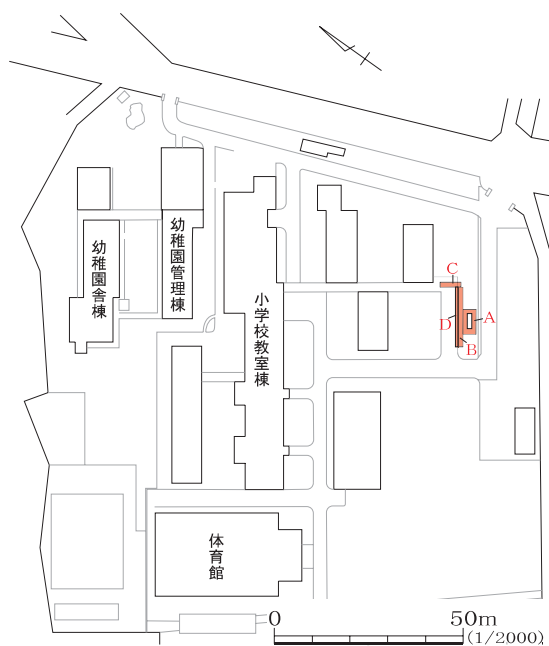


図5 調査区位置図

調査地区 白石構内

調査面積 約132㎡

調査期間 平成16年12月21日

平成17年1月14日・24日、2月4日

調査担当 田畑直彦

調査結果 教育学部附属山口小学校で、事務室棟の新営工事並びにこれに伴う玄関スロープ、渡り廊下、排水管新設工事が計画された。事務室棟の新営工事予定地は、工事前まで人工の池が設けられていたため、埋蔵文化財が存在したとしてもすでに破壊されたと考えられる場所であること、事務室棟はプレハブ建物で工事掘削規模が小さく、他の工事も同様であることから、埋蔵文化財に影響を与える可能性は小さいものと推測された。そこで、埋蔵文化財資料館専門委員会の審議・判断に基づき、文化財保護法の下に立会調査を行うこととなった。



写真8 D-1地点土層断面(南から)

事務室棟の基礎工事(A地点)は約6.3m×約12m四方の縁辺部を幅約1.5m、現地表下約45cmまで掘削を行うもので、全て造成土の範囲内であった。

玄関スロープ新設工事(B地点)は約2m×約18mの範囲を現地表下約50～70cmまで掘削を行うもので、全て造成土の範囲内であった。

渡り廊下新設工事(C地点)は、約1.6m×約4.7mの範囲内を現地表下約60cmまで掘削を行った。現地表下約44cmが造成土、約44～54cmが水田耕土、約54～66cmが水田床土であった。

配水管新設工事(D地点)は、幅約0.6m、長さ約18mの範囲を現地表下約45cmまで掘削を行った。全般的に攪乱が著しかったが、事務室棟の北～北東部の一部で埋蔵文化財を確認した。



写真9 D-2地点土層断面(南から)

東端部のD-1地点は、現地表下約20cmが水田耕土、約35cmが水田床土であった。以下は溝のない、河川埋土と考えられる土層で、約35～45cmが黒褐色シルト・暗灰色粗砂、約45～70cmが灰色粗砂であった。また、東端部においては、現地表下約60cmで地山と考えられる灰白色シルトを確認した。遺

物は出土していない。

D-1地点の西側約2mに位置するD-2地点は、現地表下約10cmが水田耕土、約40cmが水田床土、約40～45cmが地山である緑灰色シルトであった。この地点では、約50cm×60cmの範囲で緑灰色シルトから掘りこまれた土壌もしくは溝と考えられる遺構を検出した。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

事務室棟のほぼ北側にあたるD-3地点は、現地表下約22cmが造成土、約23～37cmが水田耕土、約37～45cmが水田床土、底面が河川もしくは遺構埋土と考えられる灰色シルトであった。

以上の調査の結果、調査区の大半では埋蔵文化財は確認されなかったが、D地点の一部で溝もしくは河川埋土と考えられる土層と遺構を確認した。今回の調査の東側では平成元年度に行われた污水管布設に伴う発掘調査で弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡、土壌が検出されており、調査区一帯に関連遺構が遺存している可能性が高い。

[註]

1) 河村吉行(1991)「第3章 亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校污水管布設に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口

3. 教育学部附属山口幼稚園・小学校フェンス・通用門改修工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査面積 約11㎡

調査期間 平成18年2月18日・22日

調査担当 田畑直彦

調査結果 教育学部附属山口幼稚園・小学校で安全対策向上のため、フェンス・通用門の改修工事が計画された。A地点は新設するフェンスの基礎部分について、約40cm×40cmの範囲で現地表下約55cmまでの掘削を13ヶ所で行うものであった。B地点は幼稚園の門柱の基礎部分について、約250cm×150cmの範囲で現地表下約40cmまでの掘削を2ヶ所で行うものであった。C地点は小学校の門柱の基礎部分について、約90cm×90cmの範囲で現地表下約70cmまで掘削を行うものであった。調査の結果、いずれも造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。



図6 調査区位置図